

サルコイドーシス病変部におけるプロピオニバクテリウム・アクネス（以下アクネ菌）の検出と局在に関する研究について

サルコイドーシスは肺や眼、心臓、皮膚、リンパ節などに非乾酪壊死性の類上皮細胞肉芽腫を形成する全身性肉芽腫疾患です。わが国ではこれまでサ症病変部から
プロピオニバクテリウム アクネス
*Propionibacterium acnes*の菌体成分が確認されています。

しかしサルコイドーシスの発症のメカニズムにはなお不明な点が多く、原因解明とより良い治療法への確立について研究が現在進められています。

その一環として私たちは肺やリンパ節におけるアクネ菌の組織内での局在と感染の頻度を解析することで、病因・病態をさらに明らかにし、治療法の確立をめざしているところでもあります。

具体的には、私たちは病理診断のために採取された組織の一部からアクネ菌の検出頻度とその局在を検討しております。病理診断のために採取された検体は、診断に影響のない形でその一部を使用させていただきます。採取された検体は通常の病理診断のためのパラフィン包埋標本作製し、アクネ菌に対するモノクローナル抗体を用いた免疫染色によってアクネ菌が組織内のどこにいるかを光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡で検討いたします。また病理診断に影響の及ばない範囲で組織に存在するアクネ菌の遺伝子の有無を解析します。

この研究において患者さんの個人情報公開されることはありません。

本研究によって、新しい知見に基づいたサルコイドーシスの治療法が確立することを期待しています。

なお、研究に関するご質問等は、下記へご連絡ください。

日本赤十字社医療センター 病理部 武村民子